

## 2-1

## 関係詞を用いないケース (1)

「省略」ではなく、最初から使わない

## — [1] 目的格の場合：関係詞を使用しないケースが一番多い —

まずは次の文を見てください。

- Look! **The man** you see over there is Shinjo!

「ごらんよ。あそこにいるの、新庄だよ」

関係代名詞が、いわゆる「目的格」の場合は、**that**を用いるか、関係代名詞自体を省略する(というよりも、使わない)ケースが多く見られます。

なかでも**会話体**の場合は、**関係詞を用いない場合がほとんど**です。whichや特に**whom**を使う頻度はきわめて低いといえます。

厳密に言えば、関係詞を「省略する」というより、「**関係詞を用いないで、SVを続けて名詞を説明する**」といったほうが正しいのです。実際ネイティブスピーカーは、「まず関係詞を使って、それからその関係詞を消す」などという作業を行っているわけではありません。**始めから使っていない**のです。

このような、SVで直接、名詞を修飾する形を「**接触節**」と呼ぶこともあります。名詞とSV(=節)が切れ目なく続いているわけです。

## — [2] 接触節(SVによる後ろからの説明)であることを見抜くには? —

しかし、「**接触節**」の場合は、「**関係詞節**」と異なり、それが直前の名詞を修飾しているという「**目印**」がありません。このような場合、どのようにしてSVが**接触節**であると見抜けばよいのでしょうか？

まず、**接触節**の構造を一般的に示すと次のようになります。

「名詞+SV...」ときたら……

☞ **V**の後ろ、もしくは「**V+前置詞**」の後ろが、「**名詞が欠ける形**」になっていることを確認する。

✂ 名詞 SV ● ..... [接触節の場合]

✂ 名詞 (that / which / whom) SV ● ..... [関係詞節の場合]

先ほどの例文でいえば、あえて関係代名詞を「補う」と、

✂ The man **(whom) you see ● over there** is Shinjo!

のように、読むことができます。(ただし、1-1でもふれたように、現代英語では、まず**whom**は使われません)

- 「昨日買った本はとても面白かったよ」

The book I bought yesterday was very interesting.

✂ The book **(that) I bought ● yesterday** was very interesting.

- 「ほかに何か私どもにできることがありますか」

Is there anything else we can do for you?

✂ Is there **anything else (that) we can do ● for you**?

会話体でも頻出の表現に、**All you have to do is (to) V...**「…しさえすればよい」という表現がありますが、これも関係詞を使わない代表的構文の一つです。

- **All you have to do is (to) clean up the room.**

(×)「君ら全員がしなければならぬのは、部屋を掃除することだ」

(○)「君がしなければならぬすべてのことは、部屋を掃除することだ」

→「君は部屋を掃除しさえすればいいんだよ」

✂ All **\* you have to do ● is (to) V...**